



円空仏（大成区）  
"Enkubutsu" Buddhist statue (Taisei district)

北海道が蝦夷地と呼ばれた時代から太田神社は、以来、航海安全、病や災害の危難を救う靈験あらたかな聖地として庶民の信仰を集め、大権現・大日如来、不動尊、地蔵菩薩などが祭られてきました。明治4年（1871）、時の新政府によって神仏分離令が発せられた時、この地の人々は、信仰してきた仏様を捨てるに忍びず、許しを得て大日堂を建立し、大日如来をはじめ多くの仏像、仏具を納め、大切に守り通してきました。

平成5年（1993）の南西沖大地震の津波で破損した大日堂ですが、平成8年（1996）に再建され、激浪に洗われてもほとんど損傷のなかつた仏像、仏具



太田神社本殿参拝の人々（大成区）  
Ota Shrine (People coming to worship at the Main Shrine) (Taisei district)

Ota Shrine in the Taisei district is the oldest mountain shrine in Hokkaido. The shrine is located inside a cave on a cliff near the summit of a mountain (485 m), and has long been believed to house a god that protects us from accidents at sea, illness and disasters. Three Buddhist statues carved by Enku, a Buddhist priest, who visited the shrine in 1666, are stored in a facility near the front shrine.



太田神社本殿へ続く鳥居（大成区）  
Ota Shrine (Gateway to the Main Shrine) (Taisei district)

## SYMPHONY

### 第1樂章 歴史・文化

History and Culture

# 今も語りかける太田神社 太古の自然そのままの姿で

が元のとおり安置されています。また、拝殿横の崖に立つ道内最古（安政4年（1857）建立）の灯台・定燈籠も復元され、毎夕幻想的な灯火が海の安全を祈念しています。

### ●仏の魂を木に刻んだ円空仏

寛文6年（1666）、美濃の国の僧である円空上人が太田山にこもり、修行のかたわら洞窟内で数多くの木彫仏像を作りました。さらに、安永7年（1778）には甲斐の国の僧・木喰上人がこの地を訪問、円空仏に感動し、自らも仏像を彫ったといわれています。

実物は年月の中で焼失、紛失してしまいましたが、円空ゆかりの地である岐阜県丹生川村の「円刀会」の方々によって大成区の杉を使って復元され、太田神社拝殿近くの保管施設で3体が展示されています。



太田神社本殿（大成区） Ota Shrine (Main Shrine) (Taisei district)

SYMPHONY  
The first movement  
History and Culture

### 道内随一の山岳靈場 航海安全の守り神

現在の大成区太田に嘉吉年間（1441～1443）に創立された太田神社は、松前藩祖・武田信広公が享徳3年（1454）、太田山踏査の際に太田大権現の尊号を賜ったと言い伝えられる、北海道最古の歴史を誇る山岳靈場です。本殿は標高485mの断崖絶壁がそびえる山頂付近の洞窟内にあり、古くは円空上人や木喰上人などの高名僧や探検家・松浦武四郎も訪れたとされ、航海の安全、靈神の加護として信仰されてきました。

厳しい風土に耐え開拓を進めてきた人々は、この神社を心のよりどころとして郷土の発展に努めてきました。



定燈籠（じょうとうろう）（大成区）  
"Jyotoro" lantern (Taisei district)

## 第1樂章 歴史・文化





橋本和男さん（大成区）  
元大成町史編集委員  
(元小学校校長)



### いにしえの願いの心を 後世にも伝えたい。

「太田神社を信仰の拠点としてきた大成区は、ニシン漁で栄えたまちです。その歴史は古く、300年

前の宝栄時代、先人たちは、アイヌ民族の先駆開拓を礎に、協働して大地と海を開いてきました。太田山神社の参拝には、昔は陸路では行けず、舟に乗って岸へ着きました。そこから急な山道を登り、断崖絶壁をよじ登って山頂近くの本殿にたどり着く過酷な行程は、現在と変わっていません。まさに命がけの参拝にもかかわらず信仰が絶えなかったのは、航海安全、病や災害の危難から靈神の加護を願う人々の心がひたむきだったからでしょう。開拓は必ずしも楽ではなかった。自分だけのためになく、人を愛し、郷土を愛して、創意工夫して世の中のために先人たちは生きてきましたのです」

橋本さんは、その先人たちの心を理解して、世の中に役立つ人が育ってほしいと願っています。

「大成区は、自然豊かな土地でもあります。毎年、春と秋には自然観察会を開きますが、樹木など昔のままの姿で残っています。太田山には、江戸時代後期の旅行家・菅江真澄が探索したときに見つけた岩面花（オオザクラソウ）、山牡丹（シラネアオイ）が今も見られます」

『青い鳥』の童話にあるように、幸せは私たちが気付いていない身近にあるものです。ふるさとの宝を見つめ、そこから学ぶことで人々が幸せを築いていくことを、橋本さんは教えてくれました。

北檜山区の本格的な開拓は、明治17年（1884）、徳島県からの21家族80人が兜野に入植したことになります。その後、福井県、愛知県、宮城県などからの移住が相次ぎました。明治25年（1892）には、丹羽五郎を中心とした福島県からの集団入植があり、農業を主体としてこの地を切り開きました。丹羽地区には、丹羽五郎らが集団入植の際に荷物を下ろし、地勢を調べる拠点となつたと伝えられるオンコ（イチイの木）「荷卸の松」や、「祖の松」があり、この木のそばに農場事務所が建てられました。

瀬棚区は、明治3年（1870）、旧会津藩士（福島県）5家族が入植、翌年8月に開拓が開始されました。この時期には、丹羽地区には明治29年（1896）の測量で発見された雌雄の巨大なオンコの木があり、この木のそばに農場事務所が建てられました。



祖の松（みおやのまつ）〈北檜山区〉  
"Mioya-no-Matsu" pine (Kitahiyama district)

移住者、入植者によつて、漁場も次々と開かれていきました。

厳しい気候風土に耐えながら開拓に

いたしました。尼僧院の良好な漁場として開いています。

第1号の荻野吟子が医院を開業するなど、ニシン漁最盛期には文化が大きく花開いています。

松前7代藩主公広から勲功により、宇須辻知（ウスベチ）一円を賜り、その63年後の宝永元年（1704）に厚谷四平が請負人となり、運上屋を置いたことから始まつた大成区。ニシン漁を求めて内地から来る多くの出稼ぎ者で浜は賑わいました。早くから建網漁が盛んとなり、

during its heyday.  
The Taisei district was established in 1704 when Shigobe Atsuya became a contractor for the area and set up a trading post called Unjoya. Sixty-three years earlier, Sadamasa Atsuya had been awarded the Usubechi area in 1637 from Kimihiro, the seventh Matsumae domain head, for his distinguished services. The beaches then were crowded with herring fishermen lured from Honshu, and new fishing grounds were added during this period.

# 開拓入植者がもたらし、 花開いたさまざまな文化



荷卸の松（におろしのまつ）〈北檜山区〉 "Nioroshi-no-Matsu" pine (Kitahiyama district)



昔の郵便局〈瀬棚区〉  
Old-time post office (Setana district)



明治末頃の商家〈瀬棚区〉  
Late Meiji-era merchant's house (Setana district)



豊岡6遺跡出土品  
Artifact from the Toyooka-roku-iseki ruin (Kitahiyama district)

せたな町には、3つの区それぞれに古代の遺跡があります。

北檜山区には、「兜野遺跡」「太櫓遺跡」など20数カ所の遺跡があり、平成4年（1992）に発見された「豊岡6遺跡」からは縄文時代早期（約7千～6千年前）の土器や石器が発掘されています。

瀬棚区では、縄文時代の大遺跡として全道的に有名な「南川1遺跡」や「南川2遺跡」など17カ所の遺跡が確認されており、縄文時代前期中葉（約5千年前）から人が住み始めたことがわかっています。

大成区では、「都（小歌）遺跡」をはじめ、海浜近くに縄文文化前期（8千5百～6千5百年前）から晩期に至る19カ所の遺跡が確認されています。出土した土器類から東北方面の円筒土器、下層式土器文化の影響を受け、同一文化圏に包括されていったことがわかります。



第1樂章

## 歴史・文化

History and Culture

## ●歴史を学ぶ資料館

せたな町には、「北檜山郷土資料室」（北檜山区）、「瀬棚郷土館」（瀬棚区）、「大成郷土館」（大成区）の3つの資料館があります。

「北檜山郷土資料室」は、せたな町情報センター2階に設置されています。遺跡で発掘された土器をはじめ開拓当時の農具や家財道具、民俗資料が数多く

保存され、中でも阿波人形淨瑠璃の頭や江戸時代の甲冑師・明珍信家が作った兜など、開拓入植者が出身地より持ち込んだ貴重な文化財が保管・展示されています。

「瀬棚郷土館」には、当地で開業した日本女医第1号の荻野吟子の遺品、北海道指定文化財・南川遺跡の土器や石器、ニシン漁が盛んだったころの漁具や操

業船などを展示。明治・大正時代の民家も再現されており、瀬棚区の歴史が一目で分かります。

最も歴史の古い大成区の「大成郷土館」には、厳しい労働条件の下で力強く生き抜いた祖先が使用した漁具や農具、生活必需品、古文書などが展示されています。また、当時の生活をしのぶことができます。



北檜山郷土資料室〈北檜山区〉 Kitahiyama Local History Room 〈Kitahiyama district〉

明珍信家の筋兜（すじかぶと）  
Myochin Nobue's samurai helmet瀬棚郷土館〈瀬棚区〉  
Setana Local History Museum  
〈Setana district〉大成郷土館〈大成区〉  
Taisei Local History Museum  
〈Taisei district〉

The Kitahiyama Local History Room in the Kitahiyama district exhibits earthenware excavated from archeological sites and culturally significant properties brought to the area by early settlers from their hometowns, such as the heads of Awajioruri dolls and warrior helmets made by Nobue Myochin, an Edo-era armorer.

The Setana Local History Museum in the Setana district exhibits the belongings of Ginko Ogino, the first female medical doctor in Japan who practiced in the district, earthenware and stone implements excavated

from the Minamikawa Ruins, a designated cultural property of Hokkaido, and fishing instruments and boats from the days when herring fishing was at its peak.

The Taisei Local History Museum in the Taisei district, the oldest district in the area, exhibits fishing instruments, farming tools and daily goods used by those who thrived under harsh working conditions, in addition to historical documents.